

# 歴史、社会的地位 付けの確認が必要

リフォム推進協  
等化震耐

## 構造家・川口教授が講演

県耐震化・リフォーム推進協議会（田畑光三会長）は19日、福島市のホテル福島グリーンパレスで第4回耐震化・リフォームセミナー「構造設計

が織り成すデザイン」を開いた。県建築士事務所協会の共催、県建築安全機構、ふくしま建築住宅センターの後援。

約200人が参加。関係団体や行政に加え、県立福島工業高校建築科2年生40人も聴講した。法政大学名誉教授で構造家の川口衛氏（川口衛構造設計事務所主宰）が



「建物の強さ、美しさ、面白さ」新しい技術は、矛盾を乗り越えようとするときに生まれる」と題し講演。「設計を行

っていると、目前の仕事に追われ、木を見て森を見ずに陥りがち。日常の仕事について歴史の流れや世界の出来事の中で、今、行っている仕事の位置付けが必要。テーマを自分で考え、自分が何をしているのかの意識付けが重要」前置きし、代々木競技場の張力構造などを説明した。

設計が丹下健三・URTEC、構造担当は坪井義勝研究室で、そこに所属していた川口氏は、第1体育館を担当。張力構造の施設では同時期にミュンヘン競技場が作られたが、表現は全く異なり、代々木は日本の伝統の造形を表す大屋根を取り入れたのに対して、ミュンヘンは張力が作り出す造形に任せている。このため、代々木では鉄骨のセミ・



会場に展示された計算機

組みを行っている。これらの難解、複雑な構造計算を手回しのタイガー計算機とそろばんと計算尺で処理しており最近、コンピュータで再計算してみるとほとんど変わらなかつたという。

また、埼玉県加須市の青年会議所が町おこしで作った長さ100mの「大いこのぼり」が大空を泳ぐことができず相談を受け、次元解析など技術の立場から、布や縫い目の強度にあると分析。改良を加えた結果、無事に泳ぐことができ、さらにドイツ・カイザースラウテルンでFIFAワールドカップ・日本オーストラリア戦を記念し、このいこのぼりも出展した。

会場にはタイガー計算機の実物も置かれ目を引いていた。



「設計を行」代々木は日本の伝統の造形を表す大屋根を取り入れたのに対して、ミュンヘンは張力が作り出す造形に任せている。このため、代々木では鉄骨のセミ・

200人近くが参加した講演会（上）と川口教授（上右）

「設計を行」代々木は日本の伝統の造形を表す大屋根を取り入れたのに対して、ミュンヘンは張力が作り出す造形に任せている。このため、代々木では鉄骨のセミ・

講演に先立ち、リフォームセミナーも開催。住宅リフォーム推進協議会作成のビデオを基に、リフォーム工事の進め方や減税など支援制度について斎藤隆夫専務理事が説明した。

景気などに若極めの